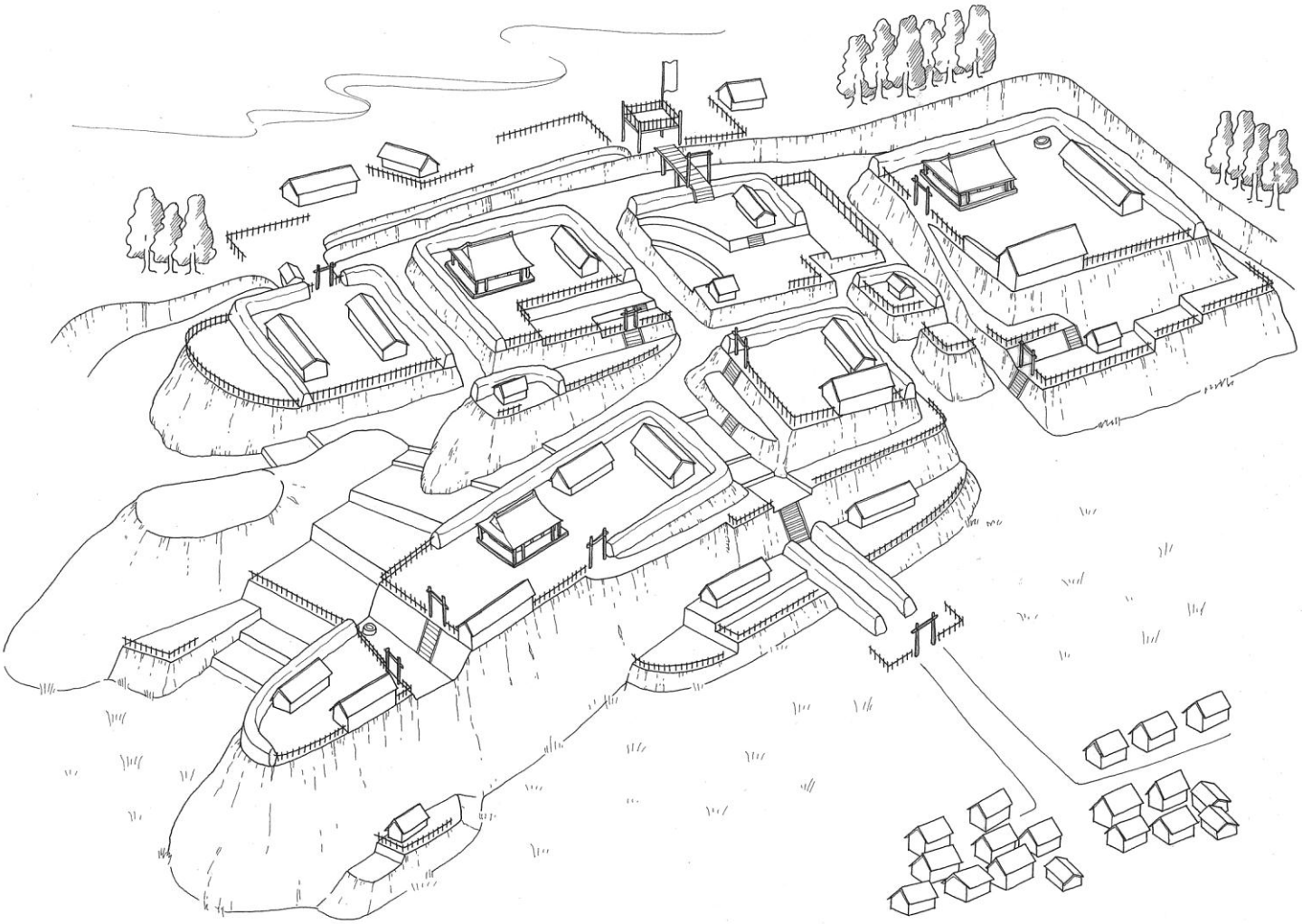
市指定史跡　鳥取県米子市

尾高城跡



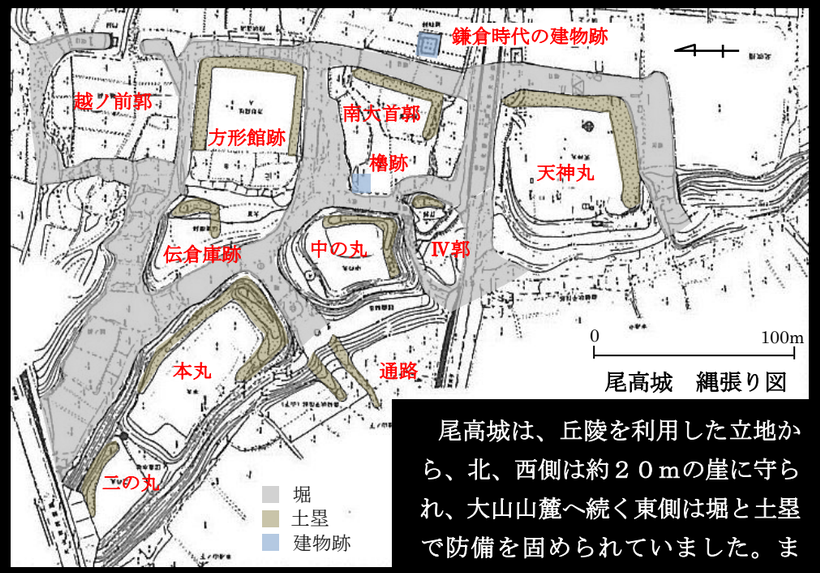
尾高城　イメージ図

米子市教育委員会

尾高城（おだかじょう）　西伯耆有数の戦国城郭

尾高城（おだか）は、別名「泉山（いずみやま）城」とも呼ばれ、西伯耆一円を見下ろす標高４０ｍの丘陵先端に築かれた中世城郭です。城下に東西交通の要である山陰道が走り、大山寺（だいせんじ）や山陽方面へも通ずる交通の要所にあたることから、戦国時代には、軍事的拠点として、尼子（あまご）・毛利（もうり）両氏による攻防戦が幾度も繰り広げられました。

南北約４００ｍ、東西約２００ｍの範囲に広がる城域には、当時の情景をうかがわせる堀や土塁（どるい）（盛土）が良好な状態で残されており、西伯耆の中世史を物語る代表的な城郭跡として昭和５２年に市の史跡に指定されました。



尾高城　縄張り図

尾高城は、丘陵を利用した立地から、北、西側は約２０ｍの崖に守られ、大山山麓へ続く東側は堀と土塁で防備を固められていました。また、城内には、北側から二の丸、本丸、中の丸、天神丸（てんじんまる）、背後に越ノ前（こしまえ）、南大首（みなみおおくび）など８つの郭（くるわ）が配置されており、現在でも各郭を区画した空堀や土塁が残されています。

※郭…城を構成する小区画

中の丸

中の丸と南大首郭を区画する空堀

空堀に面した南大首郭の建物跡

中の丸を囲む土塁

杉原盛重（すぎはらもりしげ）が城主であった時代、尼子方の武将山中幸盛（やまなかゆきもり）（鹿介（しかのすけ））が城内に一時捕らえられていたと伝わるほか、盛重の死後、二男景盛（かげもり）が兄元盛（もともり）を暗殺した場所が二の丸であったとも伝わっています。

南大首郭

復元された木橋

南大首郭を囲う復元土塁

四方を空堀に区切られた南大首郭は、発掘調査により南、東側に土塁が存在したことが確認され、東側の堀から橋脚の柱穴が発見されたことから、出入り口には木橋が架けられていたようです。

※本丸・二の丸は私有地の為、立入できません。

１９７４～７９年に実施された発掘調査では、土塁、堀のほか、井戸跡、建物跡などが確認され、南大首の郭内では空堀に面して配置された櫓跡と考えられる掘立柱建物跡が確認されています。また、南大首の堀外からは、尾高城成立に関わる鎌倉時代の在地領主の館跡と推定される建物跡が確認されています。

南大首郭調査状況

鎌倉時代の建物跡

中の丸から米子平野を望む

尾高城の眼下には城下町が営まれ、天文（てんぶん）１９年（１５５０）の洪水によって流路が変更されるまでは、日野川が城下近く、現在の佐陀川の位置を流れていました。

尾高城跡遠望

尾　高　城　の　歴　史

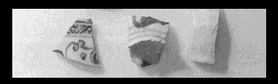
尾高城の始まりは定かではありませんが、鎌倉時代に遡（さかのぼ）るとされ、室町時代には、山名（やまな）氏の支配のもと、行松（ゆきまつ）氏が居城したと伝わります。

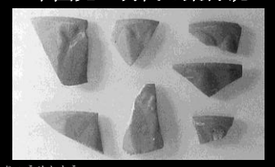
大永（だいえい）４年（１５２４）、領土拡大を進める出雲の尼子経久（あまごつねひさ）の伯耆侵攻により城主行松正盛（ゆきまつまさもり）が敗走し、尼子方の吉田光倫（よしだみつのり）が尾高城の守備を任されました。その後、山陰の覇権を巡り尼子氏と敵対する毛利（もうり）氏の攻撃によって、毛利方に味方した正盛が城主として復帰します。しかし、間もなく病死したことから毛利家臣の杉原盛重（すぎはらもりしげ）が城主として派遣されてきました。

山中幸盛（やまなかゆきもり）ら尼子軍による尾高城攻め等、度重なる攻防戦の末、尼子氏を攻略した毛利勢でしたが、盛重が病死した後、家督を継いだ長男元盛（もともり）を謀殺した二男影盛（かげもり）は切腹を命じられ、代わって盛重の娘婿にあたる吉田元重（よしだもとしげ）が城を任されました。

慶長（けいちょう）５年（１６００）の関ヶ原（せきがはら）合戦後、伯耆国１８万石の領主として新たに封ぜられた中村一忠（なかむらかずただ）が米子城完成までの短い期間、尾高城に居城しましたが、城の完成とともに米子城に移り、尾高城は廃城となりました。また、城下の商人の多くも、米子城の城下町整備に伴い、現在の尾高町に移住していきました。

城内からは、青磁、白磁、染付等の輸入陶磁をはじめ、備前焼、常滑焼、瀬戸美濃、唐津などの陶磁器のほか、硯や砥石、キセルなどの生活用品が出土しています。


中国元～明代の染付碗


龍泉窯（りゅうせんよう）（中国浙江省）青磁

尾高城関係年表

時代	年号(西暦)	出　　来　　事
室町	大永　４年　（１５２４年）	出雲の尼子経久、伯耆に侵攻し尾高城主行松正盛、敗走。 尼子方の吉田光倫が尾高城に在番。(『伯耆民談記』)
	天文１９年　（１５５０年）	洪水により日野川の流路が変わる。
	永禄　５年　（１５６２年）	行松正盛　毛利氏と結び尾高城主となる。
	７年　（１５６４年）	杉原盛重　伯耆江美城（江府町）将蜂塚右衛門 尉 を攻略。(『芸陽記』)
	９年　（１５６６年）	月山富田城（安来市）落城　毛利元就、尼子義久を攻め降す。
	１２年　（１５６９年）	尼子勝久ら尼子再興軍、尾高城、末吉城（大山町）ほか１５城を奪還。
	元亀　２年　（１５７１年）	浄満原の合戦、尼子勢、浄満原で杉原盛重らを夜襲するが敗退。(『陰徳太平記』)
安土桃山		吉川元春軍、末吉城を攻略。山中幸盛を捕え、尾高城に送るが脱出。
	天正　５年　（１５７７年）	尼子勝久、織田信長の命を受け、羽柴秀吉の播磨（兵庫県南部）攻略に加わるも、翌年、播磨上月城で敗死。山中幸盛も殺される。
	９年　（１５８１年）	杉原盛重　八橋城（琴浦町）にて病死。羽柴軍と毛利氏和睦。
	１０年　（１５８２年）	杉原景盛（二男）、尾高城二の丸で兄元盛を殺害する。
	１２年　（１５８４年）	毛利氏、佐陀（米子市淀江町）の景盛を攻め、平田にて処刑。 吉田元重　尾高城に在番。(『陰徳太平記』)
	１９年　（１５９１年）	吉川広家　月山富田城入城、米子城の築城開始。
	慶長　５年　（１６００年）	関ヶ原の戦　中村一忠、伯耆１８万石領主となる。
	６年　（１６０１年）	中村一忠　尾高城に入る。しばらくして米子城へ移り、尾高城は廃城となる。

土器出土状況

堀と柵列跡とみられる溝

尾高城跡の発掘調査では、弥生時代から古墳時代の遺物や遺構が発見されています。

なかでも南大首郭の調査では、一辺２５ｍの方形に巡る幅２.６ｍ、深さ４０ｃｍの堀と、その内側で柵列跡とみられる溝、竪穴住居跡１棟が検出されました。これらの遺構は、古墳時代の初め頃に尾高の地に住んでいた豪族の居館跡と考えられています。

また、古墳時代の堀の内部から大量に出土した土器のなかには、近畿地方で使用された土器の特徴を持つものも出土しており、当時の尾高と近畿地方との間に何らかの交流があったことがうかがえます。

交通アクセス（尾高城跡）

- 【JR】「米子駅」から路線バス（観光道路経由本宮・大山線）「尾高上」下車徒歩約３分
  【車】JR「米子駅」から車で約１５分　　米子自動車道米子Ｉ.Ｃから車で約５分
- 【駐車場】尾高城跡無料駐車場をご利用ください。

米子市教育委員会

当資料は地域の特性を活かした史跡等総合活用支援推進事業を活用して製作されています。